



No.5 Nico Nico ニコニコ

カナダ・カルガリー出身でハンガリー、オーストラリア、エクアドル（サンタクルス島）など、各国の文化に触れてきたニコールさん。独自の感性を持つ文化コラムに出あえるかも知れません。

Spring is in the air and it is time for a fresh start. It is also graduation time, which makes spring here in Japan extra exciting and a little sad too. Over the next month many students with tears in their eyes (some with smiles on their faces) will leave their old schools behind. Graduation time here reminds me of when I graduated from high school. I got to do it twice, in Canada and in Hungary (double the tears and sad emotions!). In Canada the school year ends in July. Every student writes provincial exams based on what you learned in grade 12. These exams partially determine your ability to get into university. It's stressful but once the tests are done it's time to party. In Canada the most exciting part of finishing school is the graduation ceremony. It is a big fancy dinner and dance; girls spend hours searching for the perfect dress and even more hours worrying about who their date will be. Your parents and teachers all attend this dinner. It's a nice way to formally say goodbye. In Hungary the school year also ends in July but the exams are in May. These exams more difficult because they are both written and oral. After the exams to say farewell, all the students get together and walk from classroom to classroom singing sad goodbye songs. There is also a ribbon celebrating ball. Every student in grade 12 gets a ribbon at the beginning of the year; you wear this ribbon to show you are in your final year. At the ball each graduating class performs two dances for their relatives, teachers, and friends. One dance is a standard dance and the other is usually a traditional Hungarian dance. There are lots of tears and even more pictures taken. I am excited to see how the Japanese celebrate graduations. Good luck to all of you next year.

春の気配が漂い新たなスタートを切る季節です。それは、また卒業シーズンでもありますね。自分が高校を卒業した時のことを思い出します。私の場合、カナダとハンガリーの両方で卒業式を経験しました（涙も2倍です）。カナダでは7月が年度末です。生徒は全員、州が実施する試験を受けます。これはストレスですが、終わりさえすればパーティータイムです。カナダで卒業式といえば、盛大なディナーとダンスパーティーです。女の子は何時間もかけて完璧なドレスを探し、さらにそれ以上の時間をかけてだれをパートナーにするのか悩みます。このディナーには両親や先生も出席します。正式にお別れをする素敵なやり方です。ハンガリーでも、学校は7月に終わりますが、試験は5月です。カナダより難しく、筆記と口頭試験があります。これが済むと、生徒は全員集まって悲しい別れの歌を歌って教室から教室へと練り歩きます。高校3年生の生徒はみんな年度初めに（その学年を示す色の）リボン（ボウタイ）をもらいます。このリボンが最上級生の証です。卒業の時、これを祝う舞踏会を開きます。舞踏会ではそれぞれのクラスで親戚、教員、友人のために2種類のダンスを踊ります。1つは学校で決まったダンス（ワルツなど）、もう1つはたいてい伝統的なハンガリーのダンスです。たくさん涙を流し、いっぱい写真が撮られます。さて、日本ではどんな風に卒業式を祝うのか、わくわくしています。卒業するすべての人に幸あれ、と願います。

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

「テストを受ける」は、中学校では“take an exam”と習います。アメリカ英語です。ニコールさんはカナダ人なので、上のエッセイ(上から4行目)で “write (書く) an exam” を使っています。ところがこれをイギリスやオーストラリアでは “sit an exam” と言います。“sit” は「座る」という単語です。ちょっと不思議な感じですが、そして追試は “resit the exam” です。“re” をつけると「もう一度」という意味になります。

英語教育指導員 宮地晶子の
エイゴのマナビカタ
第70回
言葉の力

ドイツ・フランクフルトのユースホステルに泊まった時のこと。コーヒーを入れようとデキャンタを持った途端、ガラスがパリンと割れてしまいました。真っ青になってフロントに行った私に、受け付けの青年は「It can happen to anybody!」（誰にでもあること）と慰めてくれました。この時の「有り難い」という気持ちは忘れられません。以来この言葉が好きです。言葉にはとてつもない力があります。京都の禅寺などにはいい言葉が書いてあり、いつまでも心の支えになってくれます。こういうものは難しく思えても、英語になるとスッと意味が分かることがあります。もともとはドイツや中国の格言であった言葉も、英語になって世の中に広まっているものもあります。私はそう

「ギフト E名言の世界」という番組です。偉人が残した珠玉の言葉を英語で教えてくれる番組のようです。NHK教育テレビ（毎週月曜日午後11時10分から20分間、再放送は土曜日午後5時40分からと月曜日午後1時半から2回）の番組です。「英語を勉強しながら生きる勇気が湧いてくる」がうたい文句です。おもしろそうです。もうひとつ。私が以前からずっと読んでいるメールマガジンに「毎日10秒！元気が出る英語」というのがあります。毎朝出勤前に読むと「がんばろう！」という気持ちになります。書き写してトイレに張ることもあります。ちなみに私が大事に思っている言葉は、ガンジーの「7つの社会的罪」です。最近、鳩山首相が国会の施政執行方針演説の中で引用したのを聞いて驚きました。背筋がすっと伸びる言葉です。